

## スーダンの連邦保健省の食堂

連邦保健省(日本の厚生労働省にあたる)内にある職員用食堂の朝食を紹介する。スーダン人の多くは朝、紅茶あるいはコーヒーのみで職場や学校に出かける。クッキーやピンポン玉位の小さな揚げパンを食べることもあるが、朝食をとるのは午前 10 時半~11 時半頃になるのが一般的である。職員は仕事の途中で食堂に行って朝食を食べるか、あるいはテイクアウトのハンバーガー(80 円~120 円)やターミンヤ(ひよこ豆の粉を水で溶いて油で揚げた物)の入ったターミンヤバーガー(約 40 円)などを買い、職場で食べる。フルはソラマメを塩味で煮たもので、玉ねぎのスライスやトマトの角切りを入れ、大豆油をかけ、好みに応じて粉チーズを振り入れる。シャッタはレンズ豆を塩味で煮たもので、カレースパイスを入れる。フルやシャッタはアルミ製のお皿に盛り付けられ、いずれもパンがつく。ちぎったパンをフルやシャッタに付けな



がら食べたり、中にちぎったパンが入っていて混ぜて食べる場合もある。食事はスプーンやフォークを使わず右手で食べる。左手は不浄とされて食事では決して使わない。職員は 10 時半頃朝食に出かけて午後のモスクの礼拝時間(午後 1 時半頃)まで職場に戻らないこともしばしばで、のんびりしたものである。紅茶やコーヒーを飲みながら話が尽きないのである。(荒木京子)

写真:シャッタにパンを入れ、粉チーズと食用油をかけて混ぜる。隣の小さい皿にあるカレー味のスパイスソースも好みに応じて入れる。スーダン、ハルツーム 2010 年 “アールディーアイ通信 No.50/2010”から

---

## シクエは初代大統領生誕の地

モザンビーク人にとって英雄といえば、独立運動を率い、1975 年の独立時に初代大統領に就任したサモラ・マシェルです。ガザ州シクエ郡シレムベネ村の農家に生まれ、地元のミツシオン小学校を出て州内の中学校に進んだので、シクエ灌漑計画地の農民とシクエ市民にとっては誇りとする同郷人であり、ちょうど日本人が首相の出身県であることを自慢に話をするように語ります。1986 年に飛行機事故で亡くなるまで大統領でした。独立闘争と建国の困難な時期にリーダーであったためか、独立後しばらくは国にとっていろいろ不幸なことが起きているのですが、力強く突き進んだ、モザンビークのヒーローと記憶されているようです。国際会議の帰途、南アとの国境付近に乗機が墜落し、閣僚とともに亡くなったとき 53 才、就任期間が短く、謎の残る死もカリスマ性を強くしているようです。2008 年に生誕 75 周年式典がシレムベネ村で挙行されました。野原に仮設式場を設置し、現大統領、政治家、官僚の演説、親類縁者の語る武勇伝、元夫人の演説などを地元民が椅子もなく立ったまま聞く様子は、選挙演説集会のようでもあり、野外コンサ



ートの雰囲気漂うようでもありました。やはりガザ州出身の元夫人グラサは、1998 年に南アの当時大統領であったネルソン・マンデラと再婚し、世界で初の 2 カ国のファースト・レディになりました。(興村暁子)写真:式典会場の様子 大統領や来賓は中央ステージから演説  
2008 年 “アールディーアイ通信 No.49/2010”から

## パラナ川の魚の味

アルゼンチンのサンタフェは、パラナ川にアンデスから流れてくるサラド川が合流するところにあり、大小の河川と沼や湖が多く、ドラド、スルビ(ナマズ)などの川魚がよく獲れ、食べる習慣があります。

着任早々同僚の自宅に招かれ、黄金の魚ドラドで歓待されました。バッサリ二つに切って、上にダンボール紙をかけて蒸し気味で20分程度炭火で焼きます。香草ハーブをかけて、手作りのオニオンソースやクリームソースとともに食べました。味は淡白でくせがなく、ハーブとの相性が抜群でした。香草のほのかな香りにつつまれた、やわらかな食感で、幸せな気分させてくれる味と言ったらいいでしょうか。その後スルビを食べる機会があり、やはり炭で蒸し焼きにし、塩とレモンの味付けでした。このスルビのあっさり味もドラドを凌ぐくらいに美味しいものでした。



高級ワインが飲みやすいように、淡白で食べやすいドラドやスルビはいくら食べてもお腹に入っていく感じがしました。蒸し焼きの魚ではドラドが王様ならスルビは女王でしょうか？ドラドかスルビかは好みの問題で、魚の光沢や希少価値からドラドが一枚上とされているのでしょう。(投稿。田中占領さん：シニア海外ボランティアとして2010年3月からアルゼンチンに派遣され、サンタフェ市役所で貧困対策の一環としての有機野菜栽培の指導に従事)

写真：サンタフェ市の同僚宅にて 2010年 “アールディーアイ通信 No.48/2010”から

---

## アルゼンチンの英雄

アルゼンチンの英雄は誰ですか？とアルゼンチンの方に質問したところ、(独立戦争を戦ったサンマルティン将軍のほかに)マラドーナという答えが返ってきました。やっぱりここはサッカーの国。それでもあえて、それはどうしてですか？と聞くと、1982年のフォークランド紛争(この諸島のアルゼンチン名はマルビーナス)でイギリスに負けた後、ワールドカップ86年メキシコ大会準々決勝対イングランド戦で、マラドーナがゴールを2点奪い取って勝ったからだ、との答え。2点のうちの1点は例の神の手ゴール(ハンド)で、余計に波紋が広がったように思います。もう1点はあのドリブル五人抜きです。

その後いろいろあって今大会では監督です。監督としての評価は様々ですが、選手としては高く評価されており、あの時の夢をもう一度というのが、アルゼンチンの人の思いなのでしょう。マラドーナ率いるアル



ゼンチンのワールドカップの成績はいかに？最近フォークランドに石油が出て、イギリスが採油するそうなので、サッカーも熱くなる予感がします。とにかくサッカーはまさに武器をボールに変えた戦争という印象を受けます。(投稿。田中占領さん：シニア海外ボランティアとして2010年3月からアルゼンチンに派遣され、サンタフェ市役所で貧困対策の一環としての有機野菜栽培の指導に従事)

写真：ワールドカップの出場メンバーもほぼ決まり、この写真の白枠「今年は君と一緒に応援するために、一つだけ空けておいた。いくぞアルゼンチン！」というようなことが書かれています。サンタフェ市サンマルティン通りにて 2010年 “アールディーアイ通信 No.47/2010”から

## ティンビラの祭り

モザンビーク南部イニャンバネ州のザバラという町で年に一度行われるティンビラの祭りは、大小の木琴による合奏に集団の演舞が組み合わされたものです。ザバラが発祥の地で、ユネスコの無形文化遺産に登録されています。3日間の開催期間中、小さな町に各地から見物人が集まって大変な賑わいです。特設の屋台が出て観客はビールを片手に焼肉を食べながら、夜通し続くステージを鑑賞します。私が訪ねた年は大統領が招かれていて、特設席で5～6時間鑑賞したそうです。

ティンビラとはティンパニーの原型のような楽器のことで、木製の鍵盤の下にひょうたんや木の実がしっかりと固定され、鍵盤を叩くと大きな共鳴音が出るようになっています。大小の木琴の音色が異なり、独特な響きで同じようなフレーズが繰り返されますが、盛り上がる場所では音も演奏の様子も激しくなります。



踊り手も手に持つ動物の皮を張った盾を地面に叩き付けたり、飛び上がったりします。エントリーしたチームが順番にステージで演奏と踊りを披露します。チーム構成は子ども中心や、企業、コミュニティのグループなど様々で、それぞれお揃いのTシャツを作って参加します。(興村暁子)

写真:ステージ上で演舞を披露(左)ティンビラは主に男性が演奏している(右) 2009年 “アールディーアイ通信 No.46/2010”から

---

## 飲料水は素焼きの水甕から

スーダン・ハルツームの町を歩いていると、家屋の入口付近にジール(Zeer)と呼ばれる水の入った大きな甕をよく見かけます。屋外にあるのは公共用で、屋内に自宅用のものも置いています。水道水が、沸かさなくてもシャワーを浴びられるくらいの体温以上の水温になるので、冷たい水が飲みたい時のために水甕に入れて冷ましておきます。土でできた素焼きの甕から水が蒸発する時に熱が奪われて冷たくなります。冷蔵庫が普及していない地方では、街角に置かれる水甕が首都よりも一層目につきます。水甕の上に屋根



根を作って直射日光、雨や埃を防ぐ工夫もなされています。

水道や井戸からの水をこの甕に入れ、公共の水甕の管理は、置かれた店や家の人が行います。ナイル川流域では川から取水してそのまま上水道から供給されるので水が濁っていて、水甕の底に泥や砂が溜まります。上澄みを飲むわけです。コップを紐でくくって水甕の横に置き、自由に飲めるようにしてあります。水甕の下には、落ちてきた水を受ける皿やブリキの箱が置いてあり、ロバや犬などがこの水を飲む風景も見られます。(荒木 京子)

写真:民家の前 2009年 “アールディーアイ通信 No.45/2010”から